

県立高校のめざす方向

自らの将来や社会を力強く切り拓く生徒の育成

高校教育の質の確保・向上

進路希望の実現につながる確かな学力の育成をめざす学校

- ・生徒の多様な進路希望を実現するための学力向上をめざし、幅広い教科・科目の選択ができる学校
- ・これからの時代に必要な資質・能力を高め、知識や技能を活用したり探究する学習ができる学校

本県産業の次代を担うスペシャリスト育成をめざす学校

- ・高度な専門的知識・技能の習得をめざす学校
- ・地域の特性を生かし、地域産業界や関係機関と連携した実践的な学習ができる学校

生徒の多様な学習ニーズに応える学校

- ・生徒の実態や進路希望に応じて多様な教科・科目から幅広く選択できる学校
- ・地域と連携したキャリア教育やガイダンス機能が充実し、職業選択に必要な力を育成できる学校

柔軟な学びのシステムを備えた学校

- ・自分の生活時間に合わせて学ぶことができる、新しいタイプの多部制定時制の学校
- ・生徒や県民の学習ニーズに対応し、社会の中で自分らしい生き方を学ぶことができる学校

選択幅の広い教育

活力ある教育活動

切磋琢磨する環境

特色ある学校づくり

学校・学科の再編整備

生徒が夢を育み志をもって学ぶ学校

生徒や教職員が生き生きと活動し活力のある学校

地域に愛され地域とともにある学校

◇構想全体はこちらへ

山口県 第2期将来構想策定

検索

お問い合わせ先：山口県教育庁高校教育課高校改革推進班

〒753-8501 山口市滝町1-1 TEL 083-933-4636 FAX 083-933-4619

県立高校の将来構想

第2期

— 高校教育の質の確保・向上を図るために —

山口県教育委員会

山口県教育委員会では、平成17年3月に「県立高校将来構想」(平成17年度～平成26年度)を策定し、本県高校教育の一層の充実に努めてきました。

今後も、中長期的視点に立って本県高校教育の質の確保・向上を図るため、「第2期県立高校将来構想」(平成27年度～平成36年度)を策定し、更なる高校改革の推進に取り組みます。

県立高校の現状

◇ 社会の変化と家庭・地域の変化

- 知識基盤社会の到来やグローバル化、高度情報化の進展など、教育を取り巻く社会が大きく変化
- 学校と家庭・地域が連携し、一体となった教育活動の充実への期待

◇ 生徒や保護者のニーズの多様化

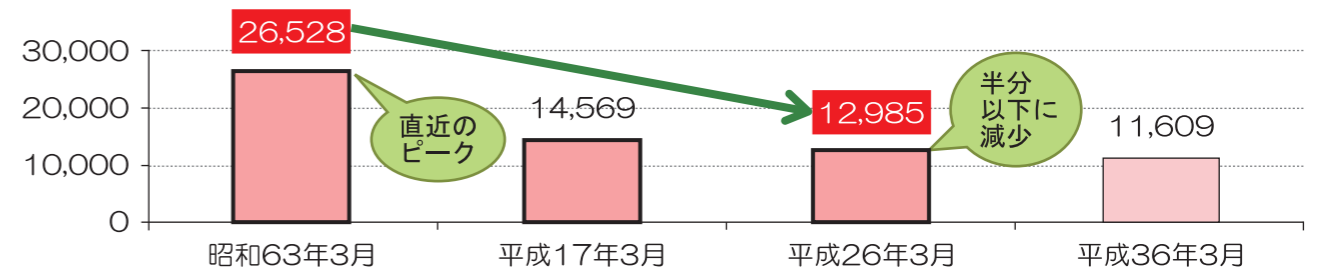
- 高校教育に関するアンケート調査から(平成26年7月 高校教育課調べ)

問 あなたは高校についてどのようなことを望みますか。

- ・自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする
- ・学校行事や部活動などの取組を活発にする
- ・情報機器や通信ネットワークを積極的に活用した授業を充実させる (選択が多かった項目順)

◇ 中学校卒業生数の減少

- 本県の中学校卒業生数の推移(人) (平成36年は住民基本台帳による見込み)



第2期県立高校将来構想の推進

■「県立高校将来構想」(平成17年3月策定：平成17年度～平成26年度)

特色ある学校づくり

学校・学科の再編整備

● 第1学年の1校あたりの募集学級数の平均(全日制課程)

平成16年度	【山口県】 3. 83学級	【全国】 5. 65学級
平成26年度	【山口県】 4. 14学級	【全国】 5. 66学級

成果

- 学校規模の拡大や教育課程の工夫等により、選択幅の広い学習活動を展開
- 地域との連携等による特色ある教育活動を展開
- 部活動での選択肢の拡大や部員数の増加による学校全体の活性化

課題

- 1校あたりの募集学級数の平均がまだ全国で5番目に小さい規模(H26)
- 入学者数が募集定員に満たない学校があること

- ◇ 生きる力の確実な育成
- ◇ 社会の変化への対応
- ◇ 生徒の多様化への対応
- ◇ 生徒減少への対応

**引き続き、
より質の高い
高校教育の提供が必要**

■「第2期県立高校将来構想」(平成27年3月策定：平成27年度～平成36年度)

今後の県立高校の在り方

基本的コンセプト(学校づくりの方向性)

- ◇ 生徒が夢を育み、志をもって学ぶ学校
- ◇ 生徒や教職員が生き生きと活動し、活力のある学校
- ◇ 地域に愛され、地域とともにある学校

教育活動の充実

教育環境の充実

特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備

特色ある学校づくりの推進

学校・学科の再編整備の推進 (望ましい学校規模の確保)

高校教育の質の確保・向上

- ◇ 選択幅の広い教育の推進
- ◇ 活力ある教育活動の展開
- ◇ 生徒同士が切磋琢磨する環境づくり

特色ある学校づくりの推進

- 中学生が主体的に学校選択をすることができるよう、各高校の個性化・多様化を図る特色づくりの推進

進路希望の実現につながる確かな学力の育成をめざす学校

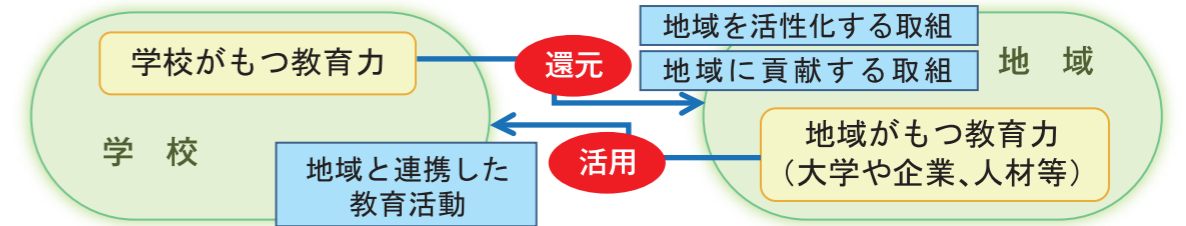
本県産業の次代を担うスペシャリスト育成をめざす学校

生徒の多様な学習ニーズに応える学校

柔軟な学びのシステムを備えた学校

- 地域社会の教育力を活用した地域ぐるみの教育活動の推進

【学校と地域との双方向による連携・協力の推進】



- 大学等への進学に重点を置く取組や、高度な専門性をもった産業人材を育成する取組を充実するなど、拠点的な役割をもつ学校について、分散型都市構造にある本県の特長も考慮した配置を検討

学校・学科の再編整備の推進

- 開設科目数、配置教員数、部活動数等から、望ましい学校規模を1学年4学級から8学級とし、その確保をめざした再編整備を推進
- 中学校卒業生数の推移や志願状況、高校卒業後の進路動向、通学実態、私立高校の配置状況などを総合的に勘案するとともに、地域における高校の実情や分散型都市構造にある本県の特長も踏まえた、年次的かつ計画的な取組を推進

再編整備の進め方

望ましい学校規模 ◆ 1学年4学級から8学級の学校

◆ 1学年3学級以下の学校
他の学校との再編統合により、望ましい学校規模の確保をめざします。

◆ 1学年3学級規模で維持する学校
1学年3学級の中高一貫教育校は、学校全体の学級数を考慮します。

◆ 1学年2学級の学校
生徒の通学実態などから再編統合が困難な場合

◆ 分校化する学校
最小学校規模は、1学年1学級とします。

※ 全日制課程を置く分校については、将来的に入学者が定員の二分の一を満たすことが見込まれない場合、募集停止を検討

Q 再編整備は、地域社会への影響を考慮せずに、一律に進めるのですか。

A 少子化の進行による学校の小規模化が進む中で、何よりもまず、次代を担う生徒たちに、より質の高い高校教育を提供するためには、望ましい学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要だと考えています。

再編整備にあたっては、地理的条件、交通事情による生徒の教育への影響などを、総合的に勘案しながら検討するとともに、再編整備の対象校であっても、県全体の教育効果を高めることが特に期待される学校においては、当面は学校を維持することも検討します。